

ART KISS LETTER

TITLE

秀島由己男展

ダークファンタジー／ミステリアス

水俣が生んだ異才

DATE

2026

4.18^②／6.21^③

開館時間 10:00－20:00

休館日 火曜日

*ただし5/5(火・祝)は開館し、7(木)は休館

秀島由己男展

ダークファンタジー／ミステリアス

水俣が生んだ異才

イベントレポート





記念講演会「秀島先生と和水町」

西山真美(和水町教育委員会・学芸員)

和水町で、秀島由己男作品の収蔵・調査等を担当されている西山真美さんにご講演いただきました。
和水町ならではの着眼点としては、「2 生前の和水町との関わり」のうち「和水町での創作活動」で、《春の城シリーズ》において、和水町の風景や人々をモデルにした作品が描かれていることが紹介されました。本展出品作品1点のほか、未出品の作品3点においても、肥後民家村内の門、竈、建物の入口が取材され作品に描かれたことが示されました。同様に登場人物では、写真が撮影された当時の社会教育課課長が、和水町で毎年開催される「戦国肥後国衆まつり」にて鎧甲冑を着用した時の姿の、秀島による撮影の

取材写真と、未出品の作品(《春の城-307》)の図版が示されました。「3 ご逝去後」については「ご自宅からの遺品等の搬出」の様子と、仮保管から調査開始まで手探りだったことが報告されました。
後半では、「作品や資料調査の面白さ」として、調査を通じて作家の魅力に気づいていった様子が示されました。作品の受け入れと調査を続けながら、町内での作品公開を毎年継続されるなど地道に活動を積み重ね、昨年度に熊本県近代文化功労者として、合併20周年を記念し、和水町町民栄誉賞を授与されたことなどが紹介されました。
(H.T.)(参加人数:38人)



CAMKぬいぐるみお泊まり会を実施しました！

■ 4月26日(日)～4月29日(水・祝)

秀島由己男展 関連イベントとして4月26日(日)～4月29日(水・祝)に「CAMKぬいぐるみお泊まり会」を開催しました。本イベントは、ぬいぐるみたちが熊本市現代美術館で過ごした時間を通して、参加者のみなさんに作品や美術館をより身近に感じていただけることを目的としています。今回 初の試みだった当館でのお泊り会には、1～2歳のお子さんから中学生が持ち主の、12体のぬいぐるみが参加してくれました。
かわいらしいぬいぐるみたちが鑑賞するのは、どこか幻想的で、ユーモラスで、ちょっぴり怖い？秀

島由己男の作品。それぞれどんな気持ちで作品を鑑賞しているのか、わたしたちの想像もふくらみます。会場内には秀島作品の中に迷い込むようなフォトスポットも。
展覧会以外にも、館内フリースペースの作品も鑑賞しました。ホームギャラリーのベッドでくつろいでみたり、階段下の作品をのぞいてみたり…。ぬいぐるみのお迎え日の4月29日(水・祝)には、お泊り会に参加したぬいぐるみの持ち主とともに巡るギャラリーツアーを開催しました。本イベントを通して、作品や美術館をより深く知るきっかけになっていれば幸いです。(H.A.)

福島絵美(アナウンサー)による読みがたり

■ 4月29日(水祝) 14:00-15:00

秀島由己男展の展覧会音声ガイドのナビゲーター福島絵美さん(アナウンサー)に、秀島由己男が一流の作家達と共作した詩画集などを朗読いただきました。
パートナーはピアニストの正源司有加さんと、秀島作品の解説のために富澤治子(担当学芸員)も登壇しました。
秀島由己男のプロフィール紹介ののち、はじめに、秀島が若き日から姉と慕った石牟礼道子とのコラボ作品である詩画集『彼岸花』より、詩「月夜」を朗読いただきました。背景には秀島作品《月夜(詩画集「彼岸花」)》を投影し、この詩の主人公「とんぱはぜ」(むつごろうの小さな種類)の描かれ方の共通点を探りました。
ピアノ演奏：ギロック「月の光」(『抒情小曲集』)より
続いて、石牟礼道子『春の城』より、「第十章 炎上」の最後を抜粋して朗読いただきました。スクリーンには秀島の挿絵・原画から厳選して投影しました。うち、《春の城-24》は、福島さんから「読むなかで貝が印象に残ったので…」との希望から選びました。貝は、石牟礼作品にも秀島作品にも共通するモチーフです。
ピアノ演奏：坂本龍一「andata」



次に、高橋睦郎とのコラボ作品のひとつである詩画集『われらにさきかけてきたりしもの』を朗読いただきました。この詩画集は、秀島が人生初の海外旅行でベルギー・オランダを訪問した折に、当地の建造物に魅了されて描いた作品群がきっかけとなって発行されたことを紹介しました。この詩画集では「塔」が共通するモチーフです。
ピアノ演奏：ドビュッシー『子供の領分』IV「雪は踊っている」最後に小泉八雲「ゆきおんな」を抜粋して朗読いただきました。投影したのは、出品作品《雪女―新説―》で、小泉八雲をテーマにしたグループ展「へるんさんの秘めごと」展(2010年、熊本市現代美術館)で新作として発表された作品です。この作品は、和水町の風景が背景に描かれており、透明感のある描写が魅力です。「ゆきおんな」は改めて聞くと哀しくも切ない物語で、福島さんによる迫力満点な朗読に会場内は聞き入っていました。
ピアノ演奏：ギロック「なつかしいヴァレンティン」(『抒情小曲集』)より
ピアノ演奏：坂本龍一「AQUA」(H.T.)(参加人数:62人)

記念講演会 「秀島由己男…この世のものでもないあの世だけのものでもない…」

前川清一(熊本県文化財保護審議会委員)

■ 5月9日(土) 14:00-15:30

和水町での作品調査をともに行ってきた前川清一さんにご講演いただきました。
秀島が手元に遺した様々な文献の調査に基づく、秀島由己男のプロフィールと人となりを紹介する内容で、各年代でのエピソード紹介の折々に出品作品・未出品作品の画像を紹介し、作品の特徴を解釈しました。特に、初期の1953年(昭和28)、新日本素工場内での「海老原美術展」開催が、秀島に具象から抽象画への画風の変化を促したのではという指摘は興味深いものでした。
ほか、画家・彫刻家の浜田知明から、1965年(昭和40)に熊本短大への就職の打診があり、それを辞退していたことについての資料はおそらく初公開でした。これらの手



「秀島由己男展開催記念 秀島由己男のせかい」

■ 5月23日(土) 14:00-16:00 / 玉名市民会館大ホール

第Ⅰ部 秀島由己男って!? まさやんトークショー

第Ⅱ部 山下牧子リサイタル～美術と音楽の交響～

第Ⅰ部

「秀島由己男って!? まさやんトークショー」では、まさやん(タレント)、亀山真依(RKKアナウンサー)、富澤治子(担当学芸員)とで、それぞれの好きな作品・気になった作品をテーマに鼎談を行いました。
まさやんさんが注目したうちの1点は、《cabbage(詩画集「静物考」)》です。キャベツの芯が描かれていないところに注目されていました。まさやんさんも言及された作家の言葉「その物の真実を、見る人に再確認させたい気持ちがあるからだ」の通り、まるで写真のような写実表現なのですが、そこには作家の創作にあたっての意図が秘められています。
亀山アナが注目したうちの1点は《空蟬シリーズ》の作品です。「闘病生活ののちに、自分がおぼけの振りをした幽霊画の作品を作るなんて、心の強い、明るい方だったのかと思いました」という発言が印象に残りました。

第Ⅱ部

山下牧子リサイタル～美術と音楽の交響～

以下のプログラムが演奏されました。

・「深い河」	メゾソプラノ: 山下牧子、ピアノ: 正源司有加
・「アメイジング・グレイス」	メゾソプラノ: 山下牧子、ピアノ: 正源司有加
・「荒城の月」(瀧廉太郎作曲)	メゾソプラノ: 山下牧子、ピアノ: 正源司有加
・「曼珠沙華」(山田耕作曲)	メゾソプラノ: 山下牧子、ピアノ: 正源司有加
・「三好達治の詩による三つの歌曲」より「乳母車」(香月修作曲)	メゾソプラノ: 山下牧子、ピアノ: 正源司有加
・福島絵美による朗読「われらにさきかけてきたりしもの」(詩: 高橋睦郎)	
・「メヌエット短調」(ヘンデル(ケンプ編曲)作曲)	ピアノ: 正源司有加
・「タイスの瞑想曲」(J.マスネ作曲)	ヴァイオリン: 黒葛原康子

・「アヴェ・ヴェルム・コルプス」(モーツァルト作曲)	メゾソプラノ: 山下牧子、ピアノ: 正源司有加
・「アヴェ・マリア」(バッハ／グノー作曲)	メゾソプラノ: 山下牧子、ピアノ: 正源司有加
・「マタイ受難曲より Erbarne dich, mein gott BWV244」(バッハ作曲)	メゾソプラノ: 山下牧子、ピアノ: 正源司有加

黒人霊歌から日本の童謡までの幅広い選曲は、主には山下牧子さんによって本展出品作品からインスピレーションを得てセレクトしていただいた特別なプログラムでした。秀島作品の世界観への理解が深まるひと時となりました。
(H.T.)(参加人数:200人)





開催しました スライドトーク(全4回)を

5月24日(日)・30日(土)・6月7日(日)・13日(土)
すべて14:00-14:30

担当学芸員の富澤治子が、展示会場の章立ての順で、各章の作品のひとところを各回30分で解説しました。

5月24日(日)は1・2章を紹介しました。1950-70年代は、画業の礎の時期にあたりますが、生涯を通じて取り組む静物画、風景画、肖像画、「口をたてに大きく開けた人物像」のモチーフがすでに表れています。モノクロの絵画表現も、カラーによる絵画表現も、この頃から確認できます。また、展示後のさらなる発見としては、「グラフィカ・クリエイティヴ'75」受賞者リストと優秀賞賞状の賞状に書かれた秀島のアルファベット名の表記と、80年代半ばの秀島作品のサイン(筆記体)とが近似しており、参照した可能性があることを指摘しました。

5月30日(土)は3・4章を紹介しました。1980-90年代は、詩画集「静物考」や、詩画集「われらにさきかけてきたりしもの」など詩人の高橋睦郎とのコラボ作品が生み出されたことが特徴です。高橋直筆の色紙や詩「われらにさきかけてきたりしもの」コピー本なども調査によって発見されました。

また、石牟礼道子の新聞小説の挿絵である「春の城」シリーズは、風景画・肖像画・静物画の3つのジャンルで構成されていますが、実在の風景をもとにした幻想的な風景画のうち、「春の城-45」のロケ地は鬼海ヶ浦海岸であることが調査で明らかになりました。肖像画については、「春の城-301 原画」のモデルは土方定一で、参照した土

方定一の写真が資料から発見されたことを紹介しました。

6月7日(日)は5・6章を紹介しました。5章は00-10年代の最晩年の作品、6章は、創作の舞台裏を紹介する内容です。《空蟬シリーズ》に、戦争のイメージが1970年代の作品以来30年ぶりに表出したこと、また、《水俣風景・鳥のいる丸島神社(熊日連載「風の舟」挿絵)》(1994)のおそらく資料だった写真に細密描写で加筆した作品が含まれることを紹介しました。また、2020年から行った調査で、最も重要な資料の発見は写真で、1970年以降、秀島は制作の資料として写真を用い始めていたことを、作品との対比で明らかにしました。本人がモデルとなった写真を用いた、最も初期の版画作品は《その中にお母さんを見た兵士(土方定一童話集)》(1971)です。これらの発見によって、1990年代からはフォトグラビュールをベースにした原版にエッチングを加筆した版画作品を制作したこと、そして2000年代以降の最晩年の制作では写真をコラージュしたり、写真の上に直接細密描写で作画したことは、キャリアにおいて自然な流れだったことを示しました。

6月13日(土)は7・8章を紹介しました。7章は秀島の師や友との交流関係を紹介、8章は自己研鑽のための美術・工芸コレクションを紹介しました。秀島は海老原門下の梅本妙子や潤田安子とは才能を認め合う友情を深めており、コレクションからは、梅本と潤田の絵画やデッサンが発見されました。《春の城》シリーズに描かれたそれぞれの肖像画と、未出品作品を交えて相互的な影響について紹介しました。美術・工芸コレクションからは、歌川豊国(3代)の《五節組》を参照しつつ、《我はいと高き神によばはん わがために百事を なしをへたまふ神によばはん(版画集 舊訳聖書『詩篇』より)》の背景処理や、《変化十態X》における衣装表現に浮世絵の影響があることを指摘しました。

(H.T.)(合計参加人数:75人)

展示会会期中のアートラボマーケットでの創作ワークショップ

カラーモールを使って
虫をつくらう!

■4月18日(土)~6月21日(日)



秀島作品に登場する「虫」に注目して、カラーモールで虫を作るワークショップを開催しました。一般のお客様はもちろんのこと、放課後デイサービスの団体様や、アートバスで来館された学生さんなど、沢山の方々にご参加いただきました。手順書を参考に虫を作られる方や、創造力を働かせて色々な虫作りに挑戦される方も多く見られ、沢山のかわいい虫が完成していました。特に親御さんとお子さんが一緒に楽しんでいる姿が印象的でした。

(A.T.)(参加人数:476人)

紙版画で
オリジナルポストカードを作ろう

■4月18日(土)~5月20日(水)



秀島作品の「版画」に着目し、身近な素材「紙」を使った版画のワークショップを開催しました。主な材料は「厚紙」と「スタンプ台」の2つです。厚紙を絵柄に沿ってカットし、ペンやカッターを使って溝を彫って絵を描きます。絵柄ができたらスタンプ台で厚紙に色をのせ、バレンを使ってポストカードに刷れば完成です。みなさん温かみのある素敵なポストカードが仕上がっていました。このワークショップを通して、秀島作品の版画がどんな工程を経て出来ているか、少しでも体験できる機会となっていれば幸いです。

(A.T.)(参加人数:36人)

ステンドグラス風の
蝶(虫)をつくらう!

■5月21日(木)~6月21日(日)



黒画用紙とセロファンを使ったテンドグラス風ワークショップを開催しました。秀島作品をモチーフに使用する事で、作品への興味につながればと思い企画しました。カッターを使用する内容でしたが、はじめてカッターに触れるようなお子さんも、保護者の方に手を添えてもらいながら一緒に作品作りに取り組んでいる姿も見受けられました。本イベントが制作の楽しさや、新たなことに挑戦するきっかけ、そして展示会への関心につながればと思います。

(A.T.)(参加人数:28人)

熊本市現代美術館

Contemporary Art Museum, Kumamoto

www.camk.jp

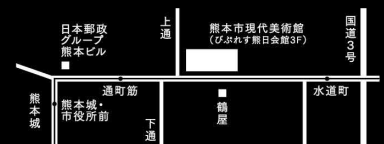
ART KISS LETTER Vol.122(2026年8月)

編集: 富澤治子

執筆: 富澤治子(H.T.)、手嶋彩香(A.T.)、穴瀬聖(H.A.)

発行: 熊本市現代美術館 www.camk.jp

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500



表紙: 左 秀島由己男《太郎(版画集「わらべ唄」)》(部分)1972、右上《写真資料 折り紙ほか》1972以前 右下《写真資料 モデルとして帽子を被った秀島》(部分)1972以前 すべて和水町蔵